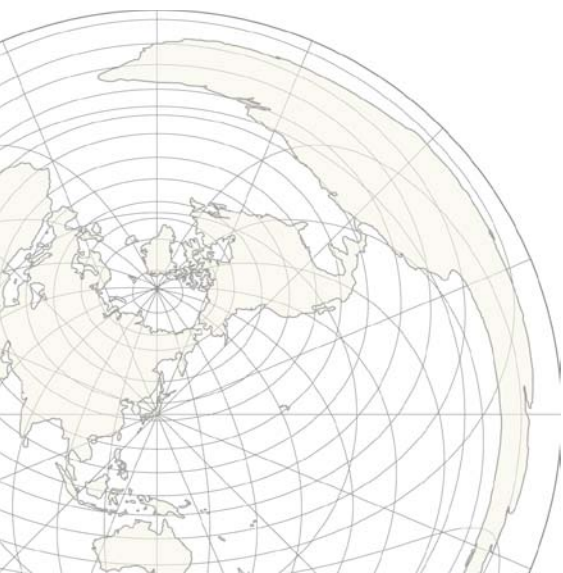


ASEAN諸国等における リモートセンシング技術研修



平成25年7月11日

ソリューション事業部 研修課

石館 和奈

実施背景(1)

- 開発途上国の地球観測技術への興味拡大による期待
- 日本の宇宙外交政策
単独の研修→衛星や地上設備、利用等をパッケージ化し、研修はその一部

【衛星リモートセンシング技術の利用段階】

① 衛星リモートセンシング技術の有用性の認識

② 衛星リモートセンシングデータの応用

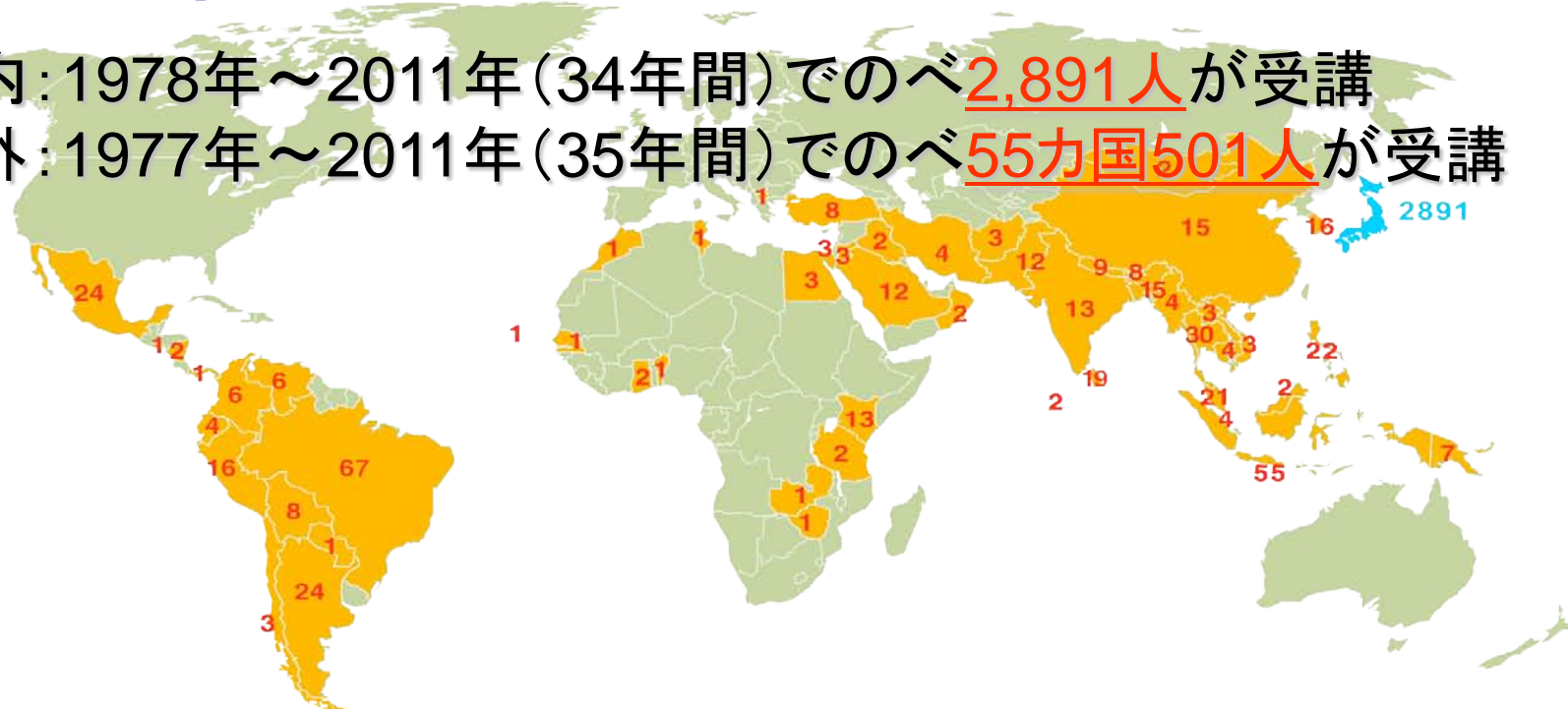
③ 地球観測衛星システム運用

各段階において研修の必要性

実施背景(2) —国内外の研修実績—

◆国内: 1978年～2011年(34年間)でのべ2,891人が受講

◆海外: 1977年～2011年(35年間)でのべ55カ国501人が受講



➤ JICA研修「応用」の利用段階

各国の要望に基づき、6年前から「環境・災害監視のためのリモートセンシング解析技術研修」である「応用」の段階への切り替え

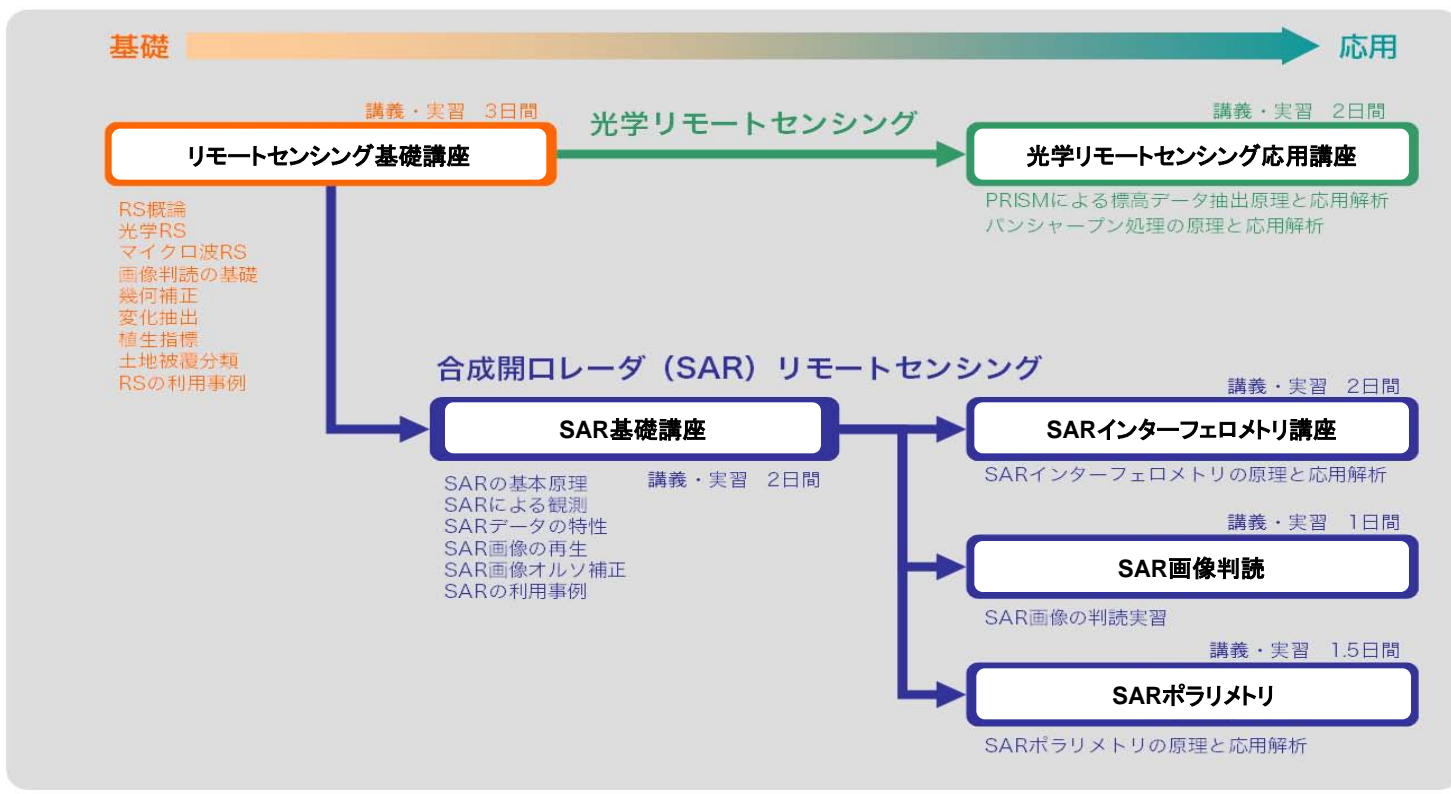
➤ 受講生の傾向

ブラジル以外には、アジア、特にアセアン(インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア)からの研修生が圧倒的に多い

実施背景(3) ーカリキュラムー

講義・実習 0.5日間

衛星画像の判読入門



要望やレベルに
合わせた
組合せが可能

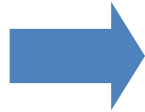
実施概要

【利用段階】

① 衛星リモートセンシング
技術の
有用性の認識



② 衛星リモートセンシング
データの
応用



③ 地球観測衛星
システム
運用



【FY24実施概要】

(1) リモートセンシング技術研修(RESTEC)

(2) 環境・災害監視のためリモートセンシング解析技術研修
(JICA)

(3) ASEAN6カ国研修(JAXA)

(4) 防災のための地球観測衛星データ利用研修
(JAXA)

(5) 宇宙新興国における
宇宙人材育成等の協力手法に係る調査研究(MEXT)

実施内容 – ASEAN6カ国研修 –

RESTECは現地準備調整～研修実施～結果評価までを一貫して実施

- 国土管理関連機関等、**現業機関を対象**に、ALOSデータを用いた研修
- **SARを中心とし、現地の要望に合わせ**、光学も含めたカスタマイズ



カンボジア



ラオス



ミャンマー



ベトナム



フィリピン



マレーシア

成果

➤国内研修:

光学112名(42機関)、SAR69名(18機関) 181名

- 衛星画像判読入門
- リモートセンシング基礎
- 光学データ応用解析
- SAR基礎
- SARインターフェロメトリ
- SAR画像判読
- SARポラリメトリ
- JAXA防災研修 等

➤海外研修 JICA(10機関) 10名

ASEAN6カ国(77機関) 181名

アフリカ地域(11機関) 14名

計386名

国内外で3500人を超える実績